専徳寺報

第443号
平成31年1月8日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000
http://sentokuji-iwakuni.net/ 専徳寺 検索

御正忌報恩講法要

御案内

ご開山・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、一年で最も大切にする法座です。万障くりあわせてどうぞご参詣ください。

日時

1月17日(木)　昼1時半～3時半
18日(金)　昼1時半～3時半
夜7時半～9時（万灯会）
※夜座法話なし
19日(土)　昼1時半～3時半

ご講師

17日・18日…本願寺派布教使・輔教
溪　宏道　師（周南市）
19日……**前住職**

◆お斎料は500円、地区割りは
17日…灘　地区（11時半～13時）
18日…通津地区（11時半～13時）
※19日のお斎はありません。

◆御伝鈔拝読…18日昼座と夜座
親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝鈔』を拝読します。

◆大逮夜と万灯会　18日夜座
聖人のご臨終を偲ぶ厳粛な法座です。

◆仏具回収…ご家庭でご不用となった仏具（お念珠、仏壇の荘厳具等）を回収いたします。

●「2019年カレンダー」＝まだお持ちでない方はご自由におとりください。
●「私の仏事暦2019」＝ご自由におとりください。
●聖典、聴聞カードもお忘れなく。
●法話中の帳場受付はお休みです。

京都参拝

今回から春に参ります。ご一緒に西大谷(ご開山墓所)、そしてご本山へお参りいたしましょう。

記

■期日　平成31年4月2・3日（火・水）
■費用　5万5千円
■〆切　1月末日
■申込　お電話ください。

ついたち礼拝〔月のはじまりはお寺から〕　次回：2月1日(金)。午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。どなたでもお参りできます。

【法句】233　「目をあけて眠っている人」私も、その一人でした。（東井義雄「心のスイッチ」より）

如来・人・言葉 111

念仏の白い息している

藤沢量正

二十二歳の若さで白血病に倒れ、妻との別れを余儀なくされた上に、病室で幼子を育てながら、ひたむきに自由律俳句を書き続け二十五歳の若さでこの世を去った、住宅顕信という俳人がいました。

彼は、岡山の調理師学校を卒業したあと岡山市役所に勤めたのですが、その頃から仏教に深い関心を持つようになり、遂に浄土真宗本願寺派の僧侶を育成する専門学校である、中央仏教学院の通信教育を受講することに決めたのでした。ここで、彼は仏教の基礎を学び、浄土真宗の教えに触れることによって僧侶になる決心をして、一九八三（昭和五八）年七月、二十二歳のときに得度をしたのです。本願寺で彼はご門主から「顕信」という法名をいただいたのですが、爾来、彼は親によって命名された春美という本名をまったく用いることなく、生涯、「住宅顕信」という名前で通したのでした。

得度を終えて帰宅するなり、彼は自宅の一部を改築して「無量寿庵」という仏間をつくり、若い人たちとともに仏法を語る場所にしたいと思ったことでした。十月には結婚して新しい人生が始まったのです。

しかしあろうことか、彼は翌年の二月に急性骨髄性白血病と診断されて、岡山市民病院に入院することになったのです。そのために、妻の実家の強い要請で離婚をしなければならなくなり、その上長男が生まれたので、その幼子を引き取ることになったのです。彼は、病室で自分の病気の療養と、病院の好意で病室に置かれたソファの上で育児を始めたのでした。家族が幼児を引き取ることを申し出ても、「自分の生きがいだから」と断り、常に自分のそばから子どもを手放さなかったようです。幸いに妹が同じ病院で看護師をしていたので、折りをみては育児の手伝いをしていたということでした。

無量寿庵

※

顕信は、自分の病気や育児のために苦しんで身も心も疲れ切ってしまわないために、かねてから興味を持っていた自由律俳句に取り組むことにしたのです。早速、俳誌『層雲』に入門し、山頭火や荻原井泉水の作品をくり返し読み続けました。とりわけ放哉の作品に浸水した彼は、『尾崎放哉全集』を購入してぼろぼろになるまで徹底的に読み込んだと言われています。彼は同じ本を再度注文して、自分のベットのそばに置いたようです。ひたむきに俳句と取り組むことによって、彼の作品は短時間の間にすばらしい成長を遂げたのでありました。その頃の作品の中に、

たいくつな病室の窓に雨をいただく
少しなら歩けて朝の光を入れる

というものがあります。いずれも静謐な叙情が感じられて、とても好もしい作品です。中には、

念仏の口が愚痴ゆうていた

という句があって、私は思わずわが胸を言い当てられたような気がしたことでした。また子どもが少し歩き始めて片言が言えるようになったのを見て、

かあちゃんが言えて母のない子よ

の句には、揺れ動く彼の心情が見えるし、

ずぶぬれて犬ころ

には、その光景が的確に表現されています。

若さとはこんなに淋しい春なのか

をみると、彼の切ない心の襞を見る思いがしたことでした。

顕信に遅れて『層雲』に投句を始めた、岡山大学環境理工学部の池端秀一教授は、その頃大学の

研究室におられたようですが、一度ぜひ会いたいという電話を受けて病院を訪ねました。そのとき、彼は開口一番、「私は本願寺派の僧、住宅顕信です」と自己紹介をしたと言います。とてもていねいなことば遣いであったが、俳句についての批評はとても厳しくて、作句に自分のいのちを賭けている感じであったと、文庫本の住宅顕信の句集『未完成』の解説で述べられています。

池畑教授によれば、一九八七（昭和六二）年一月末には、ベッドに釘付けで足に点滴が縫い込まれていても、手にはしっかりと自ら題号をつけた『未完成』の句稿を握りしめていたと言います。その句稿の題名は、自らのいまの人生を語っていたのでありましょう。その頃には自らペンを執ることはできなくなっていましたが、献身的に彼の看取りをしていた女性が、彼の口ずさむ句をノートに書きつけていたようです。その中に、

念仏の白い息している

という句があります。寒夜、彼は静かに「ナマンダブ　ナマンダブ」と念仏を称えていたのでありましょう。白い息が見えるほどの寒さの中であったと思われます。それはまさしく甲斐和里子さんの、

御仏をよぶわがこゑは御仏のわれをよびます御声なりけり（『草かご』）

の歌と同じ心境であったかと思われます。顕信は、一九八七（昭和六二）年二月七日に満二十五歳十ヶ月で往生いたしました。奇しくもその日は如月忌と称されている、一世の麗人と言われた九條武子夫人の命日でありました。

※

私は、この「念仏の白い息している」の句を読むと、親鸞聖人が『教行信証』の中の「行文類」に、元照律師のことばを引用されて、

いはんやわが弥陀は名をもつて物を接したまふ。ここをもつて、耳に聞き口に誦するに、無辺の聖徳、識心に攬入す。永く仏種となりて頓に億劫の重罪を除き、無上菩提を獲証す。

と述べられた一文を思い出します。この場合、「名」は名告りですから名号を指しており、「物」は衆生のことです。したがって、南無阿弥陀仏の名号は衆生に接して離れることがないので、み名を聞き口に称えれば、果てしない阿弥陀如来の尊いお徳が私たちの心の中に入り込んでくださると言うのです。しかも永く仏になれる種となって、この上ない証りの世界を獲ることができると示されたのでありました。

この仏のみ名を寒夜しずかに称えることによって、如来の大悲のありったけが、おそらく死を目前に控えた顕信の胸底をあたため続けたであろうと思われます。まさしくこの句は顕信の絶唱でありました。

顕信の没後一年目の祥月命日に、彼が最も敬慕していた尾崎放哉の句集を刊行した東京の弥生書房から、句集『未完成』が出版されました。大きな反響を呼んだ顕信の句については、精神科医の香山リカ氏をはじめ多くの人びとからエッセイが寄せられるとともに、絵本まで発行され、高等学校の教科書にも採用されました。さらに英訳本のみならず、フランスでは、芭蕉から現代俳句まで五百七句取り上げた出版物の中に、顕信の句が九句も掲載されたのです。

私は、いまも「念仏の白い息している」の句を想い起こすたびに、短い生涯をひたむきに生き続けた住宅顕信の一生に思いを巡らしながら、深い感慨を抱いているのです。

（『ほくほく生きる』より）

住宅顕信さんは本年が33回忌です。残した281句の中、他にも次のようなものがあります。

水滴のひとつひとつが笑っている顔だ
病む視線低くつばめ飛ぶ
黒衣一枚凡夫である私が歩いている
気の抜けたサイダーが僕の人生
立ち上がればよろめく星空
鬼とは私のことか豆がまかれる
見上げればこんなに広い空がある

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

11月25日御往生
保津　叶谷　貞子様（93）
喪主　小川　玲子様

12月1日御往生
南町　松本　二枝様（86）
喪主　松本　敏嗣様

12月3日御往生
本町　田村カツコ様（75）
喪主　田村　俊輔様

12月11日御往生
青木　森田スヱノ様（95）
喪主　森田　幸一様

12月12日御往生
海土路　原　君代様（94）
喪主　原　民夫様

12月14日御往生
保津　穴水　一眞様（82）
喪主　穴水百合子様

12月19日御往生
保津　松本　花子様（87）
喪主　松本　順子様

ご恩を偲び〔法事勤修〕11月～12月21日〕

【通津】木戸久夫7、西岡美知子25、村上黎子50、沖原健二7、中崎哲夫7、和泉嘉幾1、兼中勲7、竹原俊明25、通谷愛子100、村中慶吉7、【保津】赤崎隆子3、嘉藤拓也1、村田金吉3、村中文行17、開田幸雄100、赤崎隆子7、宮崎孝一25、【青木】谷口康行1、別広隆美3、村岡由美子13・13、廣重八重子17・33、【黒磯】季広禎真7、藤中節雄13、【藤生】野原将伸33、【海土路】古江益嵩1、【南岩国】鍵本唱章17、【大藤】篠田ツタエ50、【市内】村田博美1、岩中和男3、清中千恵子3、【日積】鶴田サヤ33、【大竹】小笠原博7、【広島】河村広志7・13

おめでとうございます

法物下附式（入仏式）

●12月10日　御三尊（20代　藤）
中町　岡崎　幸雄様
お給仕の慶び一入に存じます。

ご報告いたします

法要余香（永代経法要　11月20・21日）

【講師】深野純一師。
【参詣者】20日：昼座102名・夜座30名、21日：昼座80名。
【お鉢米】山根優、半田正昭、津村昌広、岡迫博人。
【お供物】河村アサ子

平成最後の永代経、ようこそお参りくださいました。ご講師より「真実」「生死」「他力」等、浄土真宗の要の部分を、楽しくお取り次ぎ賜りました。

専徳寺倶楽部冬の集い（12月15日）

今年も大勢の方がお集まりくださいました。煤払や溝掃除、庭木の剪定、砂利等、境内や本堂が美しくよみがえりました。

【参加者】秋嶋進一、浅井佐、伊ヶ崎正良、小方基史、沖原政裕、賀屋国昭、岸井清市、木戸久夫、白田直則、白田憲光、多山博通、半田正昭、増本真一、村中悟、森上博之、吉柴伸一、村中紀一郎、（親睦会より）松重吉英、村中久子、吉柴奈保子

仏婦研修旅行（11月5日）

【場所】西念寺（長門）、角島
【参加者（29名）】稲本順子、岩中みどり、上田シマ子、大田貞子、梶本美代子、賀屋幸子、河本多喜子、塩中幸枝、白田憲光、末広美代子、鈴木淳子、通谷みえ子、土井智恵子、中本絹代、仁田美重子、半田洋美、深井絹代、藤中康子、藤中行恵、槙島桂子、増本美佐江、水上三千代、三井初美、村岡房江、村岡世志子、村上知津江、村中久子、住職、坊守

素晴らしい天候に恵まれました。深川倫雄和上の顕彰碑にもお参りできました。

専徳寺納骨堂受付中（パンフレットが本堂にあります）